

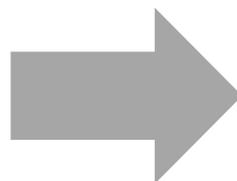
電源対策 – 新たに設置する電源車の確実な活用 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.79

新たに配備する電源車は、いざというとき確実に動かすためにどのようにメンテナンスするのか。また、発電所は外部から電源車の支援を受け入れた際に確実に接続できる構造になっているのか。



第18回ワーキング
(2021.2.16) で議論

ワーキングチーム検証結果

新たに配備する電源車等の電源設備は、**定期的に動作確認・性能確認を実施すること、汎用的な端子に変換できる電源ケーブルのコネクタを準備し、外部の電源車からも電源供給が可能とすることを確認。**

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○代替電源設備の保全方法

- ・ 発電所では、原子炉の安全確保及び発電所の安全・安定運転のため、定期的な検査等を通じて各設備の機能の維持や信頼性の向上を図っている
- ・ 新たに設置する電源車等の代替電源設備についても、下表のような**定期的な動作確認・性能試験等を実施**することにより、機能維持を図る。

電源設備	プラント状態	点検内容（案）※
常設代替高圧電源装置	定期事業者検査 停止中	・ 分解検査、外観検査 ・ 模擬負荷（100%）による機能・性能確認 （性能確認の頻度：定検停止時）
	原子炉運転時等	・ 起動試験による動作確認 （定期試験頻度：1カ月に1回）
可搬型代替低圧電源車 可搬型整流器	—	・ 分解検査 ・ 模擬負荷（100%）による出力特性の確認 ・ 可搬型整流器の出力特性確認 （性能確認の頻度：1年に1回） ・ 外観検査、運転状態確認 （定期試験頻度：3カ月に1回）

※ 記載内容は例示であり、性能確認及び定期試験の内容は、今後保安規定及び保全計画において決定する。

○電源車及び電源ケーブル接続口の扱い

- ・ 可搬型代替低圧電源車の電源ケーブル接続口は位置的に分散して2箇所設け、同時に接続不可となることを防ぐ。
- ・ 外部から支援に来た電源車も確実に接続できるよう、**日本産業規格（JIS規格）に基づく端子に変換可能なコネクタを準備し**、発電所外から支援に来た他の電源車も確実に接続できるようにする。
- ・ 継続的にケーブル接続の訓練を行い、緊急時に実働する際の実効性を確保する。



ケーブル接続箇所（電源車側）



ケーブル接続口（建屋側）